

# Muse

## 02 対談特集

大学で学ぶからこんなに深い  
**クラシック  
ギターの魔力**

福田 進一 客員教授  
藤井 敬吾 講師

## 04 音楽と生きる

**中川 重則** さん

(岡山学芸館高等学校教諭・吹奏楽部顧問)

**高山 郁子** さん

(京都市交響楽団首席オーボエ奏者)

クイズ  
この楽器は  
な〜んだ?

Q1

Q2

Q4

Q5

Q3

Q6

Q7

Q9

Q8

Q10

答えは  
P.10を  
見てね!

## CONTENTS

08 Concert Report  
定期演奏会 他

09 NEWS Index  
・研究室訪問  
・Daion Report  
・大音生なら必ず聴きたい「100曲」中村孝義  
(音楽学・理事長) 他

12 退職教員挨拶  
Topics

13 キラリ★輝く  
大音の星  
・コンクール受賞  
・NEWリリース

14 CAMPUS  
Information

15 演奏会  
Information  
3月〜6月

16 ・下手の考え  
休むに似たり  
〜学長日記〜  
・教員リレーエッセイ  
玄 宗哲  
(クラリネット・講師)



# クラシックギターの魔力



日本を代表するギタリストで、共に大音で教鞭を執る同世代の二人に、クラシックギターの魅力や大音での指導についてたっぷり語っていただきました。

## 好きで始めて ずっと続けていける

——お二人は同じ年代とか？

**福田** 僕が55年で藤井先生は56年の早生まれだから学年は一緒。青春時代はフォークミュージックやカントリー、ロックがあった。66年、僕が11歳の時にザ・ビートルズが来日している。その頃はギターを弾くと言えは「不良の始まり」みたいなレッテルを貼られてたね。

**藤井** 僕は中学校でギタークラブを作ろうとしたら教頭先生に反対された。親にも反対されたし、そんな時代だったよね。

**福田** 僕が「プロになりたい」って言ったときもまわりには「演歌を弾くの？」と聞かれたくらい。ギターといったら世間ではそのくらいの認識しかなかった。

**藤井** 親に怒られるから家で弾けない時期が結構あったんですよ。仕方ないから勉強するふりをして机に向かって作曲をしていた。当時はテレビゲームも携帯電話もない時代だからものすごくハマってね。「ソナタ形式とはなんぞや」なんて自分で本で調べて、見よう見まねで曲を書くのがおもしろくて。親戚の人でギターを弾いてる人がいたからよく見に行ってた。「そんなに好きなら1本やる」と言われてもらったんです。

ギターで弾きやすいのはもちろんですが、「ピアノイズム」に対する「ギターイズム」とでもいうような演奏上の快適さを感じます。ギターを知り尽くした指運びとか、弾いてて納得してしまうような感覚というかな。日本人なんだから日本人の作品をもっと弾いていきたいですね。

**藤井** 一昨年、福田先生が定期演奏会で弾いた「アランフエス協奏曲」。作曲したJ・ロドリゴはスペインのバレンシア地方出身なだけけど、同じバレンシア出身の人がこの曲を弾くと国から奨励金が出るそうです。自国の作曲家を大切にしてくれているんですね。それがなぜか日本では日本人の曲を演奏すると高い著作権料を払わないといけない。日本人は、もともと日本のことを世界に知ってもらえるようになってほしい。

**福田** 我が国の音楽なんだからもともと政府にも協力してもらいたいですね。僕は最近、ナクソス（香港のクラシック音楽レーベル）と契約したので、60歳を過ぎてからのライフワークとして日本人の作品を録音していこうと計画しています。藤井先生の作品集もいずれ出したいですね。

## 音楽で食べていくことも 夢じゃない

——大阪音楽大学で学べるクラシックギターの特徴は？

**藤井** 福田先生も僕もそうだけど、ギターの世界では留学する人が多い。どんなに語学が堪能だとしても異国の言葉ですべての

**福田** 例えばクラシックの人は「親に無理矢理ピアノを習いに行かされて始めた」なんて人も多いと思うけど、ギターの場合はまず違うね。ほとんどの人は自主的に好きで始めている。これはほかの楽器にはあまりない現象かもしれない。

**藤井** ギターが好きで仕方ないから、定年になってからまた習いに来るっていう人も多い。「今まで仕事を頑張ってきたんだから」って退職金でいいギターを買って、また本格的に勉強を始めた。ピアノやヴァイオリンはある意味敷居が高いけれど、ギターにはそれがありませんよ。

——ある程度年齢が高くても始められる楽器なのですね。

**福田** 我々の世代はとにかく熱心でハングリーですね。今は指導者となってたくさんさんのプレーヤーを育てている人も多い。

**藤井** ある意味きちんと教えることができる指導力のある人は、かなりの確率で食べていくことができる世界ですね。僕は今、社会人の団体を2つ指導しているけど、どちらももう15年以上続いています。年齢層も幅広いし、年を重ねても続いている。

## 日本人の曲をもっと世界に 知ってほしい

——福田先生は藤井先生にギター曲を委嘱されたり、編曲作品をCDに収録されていますね。

**福田** ギタリストの作った曲ですから

授業を理解するのは本当に大変です。言葉で苦労して単位が取れないために実技の時間が削られる。下手したら、入学した時より下手になっていくなんて事態にもなりかねない。

**福田** 僕がおすすめてるのは、まずベーシックな部分は日本の大学で学ぶという。自国で学べる魅力は本当に大きいんですよ。僕は日本ではここでしか教えていません。個人レッスンだけでなく、アンサンブルができるのもいいですね。

**藤井** 教則本をきっちり読み直し基礎を学ぶ「基礎演習」という授業もあります。日本人が日本語を使って正しく学ぶことは大切。僕は、例えば日本語の童謡をギターできっちり弾かせたりします。日本語の歌詞は誰でも見ればすぐに理解できるでしょう。単語の意味がわかって、それを音に置き換えて表現する。日本語でできないものは英語でも絶対にできないから。

**福田** 簡単な曲でいいから音楽をきちんと理解した上で表現できるギタリストを育てたい。基礎があればいくらでも伸びます。例えばFプーランクが唯一ギターのために作曲した「ギターのためのサラバンド」というとても短いシンブルな曲があるんですが、こういう曲をきちんと表現できることが大切だと思っています。

**藤井** きちんと演奏できて和声構造を説明できて指導力がある人を育てたい。そんな人なら、高い確率で食べていけるのがクラシックギターの世界です。



ふじい けいご ●1956年北海道上磯町生まれ。7歳よりギターを始め、独学で和声学や対位法を学びつつ、15歳から数年間にわたり1日1曲を日記代わりに作曲する。イギリスのギルド・ホール音楽院、スペインのオスカル・エスブラ音楽院に学ぶ。数々のコンクールに入賞。ギターを岡本一郎氏、J.L.ゴンサレス氏、D.ラッセル氏に学ぶ他、A.ディアス氏のマスター・クラス受講。作曲はC.ブライトン氏に師事。独奏、室内楽などのほか、ピアニストである夫人の藤井由美との二重奏でも活躍中。

講師

## 藤井敬吾

大阪音楽大学 クラシックギター専攻  
大阪音楽大学短期大学部 クラシックギター・コース

独奏のみならずアンサンブル技術を身に付けます。演奏家としてだけでなく良き指導者として社会で活躍できるようレッスン技術を向上させるとともに、自らの演奏に必要な独奏曲への編曲、ギター合奏曲の編曲に留まらず、レッスンや愛好家に向けて必要な編曲能力を育てます。



客員教授

## 福田進一

ふくだ しんいち ●1955年大阪船場生まれ。12歳より故 斎藤達也氏に師事。77年に渡仏し、アルベルト・ボンセ、オスカー・ギリアの各氏に師事した後、81年パリ国際ギターコンクールでグランプリ優勝、さらに内外で輝かしい賞歴を重ねた。世界20数カ国の主要都市に招かれ、リサイタル、マスタークラスを開催。11年秋から5年にわたる「バッハ作品集」のリリースを開始。同年、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。



「プエノスアイレスの冬」  
福田進一  
(日本コロムビア・2310円)  
全国のCDショップ、amazon他  
※藤井敬吾講師編曲作品を2曲収録。



# 中川 重則

岡山学芸館高等学校教諭・吹奏楽部顧問

## 「迷い」も「紆余曲折」も 今の自分を作ってくれた 貴重な経験

### 生徒たちと共に過ごし 成長を応援する日々

「仕事が本当に楽しい」と今、胸を張って言える日々。朝から晩まで学校で生徒たちと頑張っています。吹奏楽部は120名を超える大所帯で、校内で最も活気のある場所の一

つです。私が勤める岡山学芸館高校では、人間力を高めることから部活動は重要であると位置づけられています。勉強にも力を入れていまずので、生徒たちは非常に濃い3年間を過ごします。高校時代の3年間は、さまざまな面で大きく成長し、それぞれが選ぶ道、進路に向かって

舵を切る大切な時期ですから、どのような時間を過ごすか、教師として大きな責任を感じます。私自身の経験からも高校時代、大学時代のたくさんいい出会いは、現在の大きな力となっています。生徒たちにも音楽を通じてたくさんのお会い、いい経験をさせてあげたいと思います。

### 朝から晩まで ひたすらトランペット！

小学生の時に上級生の金管バンドを見て「カッコイイ！」と衝撃を受けました。バンドそのものより、とにかくトランペットだけがカッコ良く見えたのです。「あの楽器がやりたい！」という思いだけで中学校でも、そして高校でも迷わず吹奏楽部に所属してトランペットを続けました。高校に入ってから、のちに大学でもお世話になる故加藤隆功先生のレッスンを受けるため、岡山から芦屋のご自宅まで通っていました。中学生の頃から将来は必ず音楽をやろうと思っていましたし、自分の中では当然音楽大学に行くものと決めていました。なんの迷いもありませんでした。逆に言えばそれ以外は何も思い浮かばなかったんですよ。こんなに熱心に続けられる習い事はトランペットだけだっ

たので、両親も音楽の道に進むことに反対はしませんでした。

大学に入学してからもひたすらトランペット。毎日朝早くから夜、守衛さんに追い出されるまで練習に明け暮れました。下宿は庄内の風呂無し四畳半。近所に住んでいた大音仲間たちとお互いの家を行き来したり、みんなで銭湯に行ってから飲みに行くという日々でした(笑)。本当に楽しかったですね。

### もともと 前へ突き進んでいきたい

そんなふうには、在学中はトランペットばかりだったので「教員になるう」なんてこれっぽっちも思っていないませんでした。オーケストラに入って演奏家になるんだ、と強く思いこんでいましたから、学生時代には教職の単位を全くとっていなかったんです。

卒業後は声をかけていただいていたこちらで吹奏楽部指導のお手伝いをする機会に恵まれました。最初の頃、自分自身が演奏することばかり考えていましたから、人に音楽を教えるということがあまり得意ではありませんでした。しかし、学校現場で情熱を持って毎日生徒たちと向き合い音楽を作り上げて

いく先生方の姿に、私は心を大きく動かされ、一生懸命に音楽に挑む生徒たちに、自分が少しでも力になってあげられることに大きな喜びを感じるようにしました。

「人の力になれること、人の役に立てること」を自分の生きる道に。本腰を入れて教育に携わろう、教師になろうという気持ち徐徐に芽生えてきました。しかし、教員免許がない。その時すでに20代後半。一大決心をしてもう一度、科目等履修生として大学に戻ることになりました。周囲からは心配もされましたが、あの年齢で教育の勉強ができたことはとても有意義でした。教免が取れたのは30歳。大阪の高校で非常勤



講師をしている間に母校から声をかけていただき、岡山学芸館高校で教師をするようになりました。

紆余曲折を経て、学生時代に思っていた将来とは全然違いましたが、回り道している間にもさまざまな経験ができたことは意味があったと思いますし、今は教師という仕事に大きなやりがいを感じています。人より約10年遅い教員生活のスタートでしたが、だからこそ今の自分にはできないことがあるのではないかと思います。これから情熱を持って生徒たちと日々を過ごし、一緒に笑顔で舞台に立ちたいと思います。



▲生徒たちとのコミュニケーションを大切にしている



▲正面玄関には吹奏楽部が受賞した数々のトロフィーや盾がズラリ



▲吹奏楽部の生徒たちと一緒に

#### 岡山学芸館高等学校吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクールに11回出場し、2011、12年と2年連続で金賞を受賞。アンサンブルコンテストでも2年連続全国大会出場。定期演奏会、Popsコンサート、コンクールなど年間約30回のステージに出演。

●なかかわ しげのり  
1992年大阪音楽大学音楽学部器楽学科卒業。トランペットを故加藤隆功・D.ドワイヨの両氏に師事。2000年非常勤講師として大阪市立西高等学校に2年間勤務。2002年より岡山学芸館高等学校吹奏楽部顧問。





# とる 生きる number 12

大音卒業生が語る  
“音楽と生きる”人生

## 高山郁子

京都市交響楽団首席オーボエ奏者

### オーケストラの一員として 音を出せる日々感謝

京都市交響楽団の首席オーボエ奏者として年間約100本のコンサートに出演。また教育者として大学でのレッスンや受験生の指導をしています。オーケストラの一員として、信頼するメンバーと共に一緒に音を出せることに感謝する日々。私に与えられた人生最大のやりがいある仕事だと自負しています。自分の音がこの楽団の中で一役買っていると実感できることは大きな喜びです。たとえつらいことがあっても「つらいと思わないようにしよう」というのが私の信条。普段の生活は不規則で睡眠時間も充分に取れているとは言いがたい毎日ですが、元来丈夫な体のおかげ

げでしょうか。元気で仕事をさせていただいています。この仕事はとにかく体が資本。自分のペースを崩さず、健康で安定した状態を保つことをいつも心がけながら音楽に邁進できる毎日を楽しんでいます。

### 先輩や後輩との 強いつながり

幼稚園の頃にピアノを習い始め、物心ついた時には「ピアノで音大に行こうかな」とおぼろげに思っていました。中学校に入学して吹奏楽部に入ったのですが、人数の関係で自分の希望するフルートはできませんでした。それで担当したのはパーカッション。夏ごろになって「誰かオーボエに移ってもらえないか」という話があり、「せっかく吹奏楽部に入ったのだ

から、何か吹く楽器をやりたい」と思っていた私は即立候補。それまではほとんど存在すら認識していなかったオーボエという楽器を始めることになったのです。

腹式呼吸にリードの調整など苦勞の絶えないこの楽器にいつしか愛着がわいてきて、中学3年になった頃にはすでに音楽大学を受験することを意識するようになっていました。個人レッスンにも通い始め、高校に入学してからはおとにかくオーボエ一筋でした。そして何の迷いもなく大音を受験。入学後は本日から朝から晩まで練習に明け暮れていました。自分にとって、常に吹いていることがあまりにも当たり前になっていたもので、本当にそれほど練習していたのか思い出せないほど。学生時代の友人に聞いた「すごく練習してたよ」って(笑)。オーボエが空気のような存在になっていたのかもしれない。

大音は先輩や後輩とのつながりが

## これが人生最大の やりがいある仕事



とても強い。これは胸を張って言える大音の特長だと思います。演奏活動も盛んで、私も先輩から誘っていただいて何度も演奏会に出させていただきました。ほかの楽器の人たちとの交流も盛んで、一緒にアンサンブルを組んで活動もしました。学外のホールで演奏できたことも、素晴らしい思い出です。音楽漬けの本当に充実した大音時代は、人生の中で一番色濃く私の中に残っています。

### 音楽を学んだことは 大きな自信になる

楽しい学生生活を送る一方で、将来のビジョンは全く見えていませんでした。卒業後は大音の演奏助手をしつつ、とりあえずフリーという形で活動。先輩に誘われて演奏のお仕

事をいただくことも多かったです。これも大音時代のつながりのおかげかなと思います。そんな日々を経てドイツへ留学。帰国後に大阪フィルハーモニー交響楽団に入団しました。3年間在籍したのち京都市交響楽団へ移り、現在まで約10年間お世話になっています。

私の場合は学生時代に見えていなかった将来の姿が、卒業後にチャンスを与えていただくことによって決まってきました。在学生の皆さんの中にも、将来のビジョンが見えず不安に思う方もいるのではないのでしょうか。音楽の道に進む場合もそうでない場合も、自分自身がこれまでにやってきたこと、勉強してきたことを信じて認めてあげることが大切だと思います。音楽をやってきたからこそ鍛えられ

る精神力の強さや感情の表現方法は、社会でも生かしていくことができます。特にオーケストラのような集団で活動する場合は周りの協力なしには仕事になりません。音楽を学んでいる自分に自信を持って、社会に溶け込んでいってほしいと思います。

演奏活動をする中で「音楽の力」を実感する日々。中学校の吹奏楽部で学外演奏に行った時、聴衆の方の大きな拍手と演奏に対する感謝の言葉をいただき、聴いてくださっている方々とのつながりを感じました。そこには「演奏者と聴衆」という関係を超えて「音楽でつながる」という感覚を味わいました。今でも忘れられない素晴らしい体験です。この感覚をずっと味わっていたいから、これからも演奏し続けます！



▲京都市交響楽団の信頼する仲間たちとの演奏



▲リードの調整は常に必要。道具一式はいつも持ち歩いています

●たかやまいくこ  
大阪音楽大学音楽学部  
器楽学科卒業。ドイツ国  
立カールスルーエ音楽  
大学大学院を最優秀で  
修了。大阪フィルハーモ  
ニー交響楽団を経て京  
都市交響楽団首席奏者。大  
阪音楽大学非常勤講師。





キャスト、スタッフからオーケストラまですべてを学生だけで作るオペラ公演「Tutti2013」を5月19日(日)ザ・カレッジ・オペラハウスにて行います(16時30分開場、17時開演)。

今年の演目はJ・シュトラウスⅡ作曲「ジプシー男爵」。2月にはオーケストラ

お知らせ

## Tutti2013 開催のお知らせ

学生だけで作り上げるオペラ公演



制作統括  
岩本 真利さん  
(大3・声楽)

の合奏練習も始まり、現在急ピッチで準備を進めています。観覧ご希望の方は件名に「Tutti2013」と書いて氏名、連絡先、希望人数を明記の上、tutti2013@yahoo.co.jpまでメールをお送りください(5月10日締切。折り返し詳細をお送りします。ぜひお誘い合わせの上)ご来場ください。



毎日新聞社提供



▲音楽祭の締めくくりはオペラ名曲コンサート



▲公開クリニックでは地元の中・高校生が熱心に指導を受けました

お知らせ

## 全日本学生音楽コンクール 全国大会1位を受賞 大学3年生声楽の 野々村彩乃さん

第66回全日本学生音楽コンクール最終日の2012年12月4日に行われた声楽部門大学の部で本学の野々村彩乃さん(大3・声楽)が第1位を受賞しました。当日歌ったのはG・ドニゼッティの歌劇「アンナ・ボレーナ」の中から「私の生まれたあのお城」。「受賞は一つの通過点。まだたくさん目標があり、頑張っています」。また、大学専攻科の前田満さんも入選し、全国大会で2名が入賞という快挙を成し遂げました。

イベント

## 一日中音楽を楽しむお祭り すばる音楽祭2013開催!

▲全員集合!



▲門脇中学校にて生徒と話をする和泉副学長



▲蛇田中学校にてCDを手渡す中村さんと石田さん



▲津波と火災で大被害を受けた門脇小学校で森俊英先生(元蛇田中学校長)に話を聞く

お知らせ

## 宮城県石巻市を訪ね 「石巻・わがふる里」の贈りもの

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市出身の和泉耕二副学長が、故郷の復興を願い、震災直後に作曲した「石巻・わがふる里」(編曲 高橋徹准教授。11年クラリネット・オーケストラのコンサートにて録音したCDを「生徒の皆さんに直接手渡ししたい」との思いがここのたび実現しました。2月21日、22日の2日間にかけて学生代表で録音に参加した中村早希さん(大3・声楽、石田めぐみさん(大専・クラリネット)と本田耕一 副理事長、和泉耕二 副学長が当地を訪ねました。

訪れたのは石巻市内の北上・河北・河南・河内・蛇田・湊・萩浜・石巻門脇・住吉の各中学校と石巻高等学校の計11校。震災の影響でさまざまな問題を抱える各学校の様子を校長先生から伺い、また津波の被害で使えなくなってしまう校舎など被災地を視察しました。被災地への復興支援活動として11月11日に約30名の学生が現地での演奏や音楽指導のために訪問、12年2月にはザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団が演奏訪問しています。大阪音楽大学は今後も継続して支援活動を行う予定です。

1月19日(土)富田林市のすばるホールにて「すばる音楽祭2013」が行われました。これは富田林市の出身で同市のミュージックアドバイザーである晴雅彦准教授が企画し、開催したものの。講師・出演者の多くが大阪音楽大学の教員や卒業生であるこの音楽祭では、管楽器やピアノ、ヴォーカルの公開クリニックやさまざまなジャンルのコンサート

サートが開催されました。また富田林市の中学・高校の吹奏楽部が多数演奏するなど、地域に密着した誰もが楽しめるイベントとなり、地元の音楽ファンが詰めかけました。晴雅彦准教授をはじめ松田昌恵教授、石橋栄実助教らとザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団との共演で行われたコンサート「ちよっとオペラチック」かなりロマンチック!!では、オペラの名曲がたっぷり演奏され、客席からは温かい拍手が送られました。

## 2012年11月15日(木) ザ・カレッジ・オペラハウス 第24回 ザ・コンチェルト・コンサート

選抜学生による協奏曲演奏会。小田野宏之特任教授指揮ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団が共演。ヴァイオリン、ピアノ、トロンボーンの4人の学生が日頃の成果を披露しました。



▲米田 尚弥(大1)



▲乾 将万(大3)



▲小西 真利江(大4)



▲木戸 均(大4)

## 2012年11月19日(月) ミレニアムホール 第23回 ザ・カレッジ・コンサート

選抜学生3人によるジョイント・リサイタル。



▲長谷川 紗希(大4)



▲平松 未於(大4)



▲西 恵里夏(大専)

2012年11月30日(金) ミレニアムホール  
第35回 邦楽演奏会  
邦楽専攻・コース学生と教員による演奏会。ラストの佐藤敏直作曲「ディヴェルティメント」では、管打楽器専攻の学生を交えた総勢15人で迫力の合奏を披露しました。



## 2012年12月7日(金) ザ・シンフォニーホール 大阪音楽大学 第55回 定期演奏会

2011年度より5年間にわたる「創立100周年記念プロジェクト」の一つとして行われた本公演。プログラムにはP.I.チャイコフスキー、S.プロコフィエフ、M.P.ムソルグスキーというロシアの作品を取り上げました。S.プロコフィエフ「ピアノ協奏曲第3番ハ長調作品26」では有森博特任教授が共演しました。



▶指揮は小田野宏之特任教授



## 2013年1月26日(土) サンケイホールブリーゼ 2012年度 大阪音楽大学短期大学部 ポピュラーコース・コンサート

3校の高校軽音部がオーブニングアクトで素晴らしい演奏を披露してくれました。第1部は短大専攻科、第2部後半は「ザ・ビートルズセレクション」と題してデビュー 50周年を迎えた彼らの曲を全出演者で演奏しました。



## 2013年1月13日(日) ザ・カレッジ・オペラハウス 2012年度 大阪音楽大学短期大学部 電子オルガンコース・コンサート 「フライング・ライブ2013」

プログラムラストは「音楽物語『100万回生きたねこ』」を大学専攻科の木村匠さんの白熱のナレーションと8人の奏者による演奏で締めくくりました。



▲ナレーションは電子オルガンコース出身の木村匠さん(大専・声楽)

## 2013年2月21日(木) ミレニアムホール 2012年度 大阪音楽大学短期大学部 ミュージカルコース 第2回試演会

台本・作詞・演出を羽鳥三実広教授が手掛け、全曲クラシックをモチーフに社会風刺を織り交ぜたストーリー「マダムオズ」。満席の会場で、ラストに歌われた全キャストによる「スカイ&クラウド」は圧巻でした。



## 2013年2月14日(木) ミレニアムホール 2012年度 大阪音楽大学・ 大阪音楽大学短期大学部 ジャズコース・コンサート

前半は4組のコンボ、後半のビッグバンドではアンコール含め7曲を披露。総勢28人のメンバーが曲によって入れ替わり、大迫力の演奏を繰り広げました。







## 第46回 幸楽会 ニューイヤークンサート開催

ザ・カレッジ・オペラハウスにて1月14日(月・祝)幸楽会コンサートを開催しました。午前中は激しい雨が降り続いていましたが、午後からは奇跡的に天候が回復。会場は満員のお客さまにお越しいただきました。

第1部は、18〜19世紀初頭にはやった「ハルモニウムジーク」という管楽器による演奏形態で、W・A・モーツァルトの「ドン・ジョバンニ」KV527より「9人」の出演者により演奏。また第2部は恒例の「オペラ・ガラ」。7人がオペラ・アリアを披露しました。

最後に第2部出演者全員による「メリー・ウィドー」より、ヴィリアの歌を披露。大盛況のうちに幕を閉じました。



▲第一部のハルモニウムジーク



▶ラストは歌手全員で



## 文化庁芸術祭新人賞受賞 卒業生の 老田裕子さん

大学院歌曲研究室を修了された老田裕子さんが、2012年11月4日兵庫県立芸術文化センターでのコンサート「子供の不思議な角笛」における歌唱が評価され平成24年度文化庁芸術祭新人賞を受賞されました。老田さんは関西を中心にさまざまな演奏会への出演、企画を行っており、活発に活動されています。

「この度は思いがけずこのような賞を頂き、とても光栄に思っております。これを励みに、これからも一歩一歩地道に、でもチャレンジは忘れず、自分の声に向き合って歩んでいきたいです。」



▲「子供の不思議な角笛」コンサートにて



## 神澤哲郎名誉教授が死去 存在感が光る 寡黙な人柄

神澤哲郎名誉教授が2012年12月27日、死去されました。88歳でした。神澤名誉教授は1950年に大阪音楽高等学校講師に就任、短期大学講師、大阪音楽大学助教授を経て58年に大阪音楽大学教授に就任。92年に退任されるまで実に42年間にわたり教育に従事されました。01年には教育研究の功績を認められ、勲三等瑞宝章を受章されています。



◀買った借りたりした本が積み上げられていく



## 研究室訪問

普段はなかなか入ることのできない先生の研究室におじゃまします！

▶部屋を占領する本棚たち



今回お訪ねしたのは……

西村 理助教

(担当科目:音楽学研究、文献研究、音楽学演習、西洋音楽史(A)、西洋音楽史概説、修士演奏資料研究、音楽基礎セミナー) H号館316号室

## 「本」を通して見方、考え方を築いてほしい

大学の卒業論文で「1920年代にドイツで活躍した作曲家」をテーマに選んで以来、その時代を研究テーマにしています。現在、興味があるのはオーストリア。「赤いウィーン」と呼ばれる社会民主党が政権を握った当時のウィーンは芸術活動も盛んで、A.シェーンベルクやその弟子たちが活躍した時代。その頃にどのような曲が演奏され人々がどう受け止めていたのか、興味は尽きません。

私が受け持つ「音楽学」の分野では本や資料を読み込むことが重要です。まずは「どんな」本を「どのように」読んでいったらいいか。そして読み方も、ただ内容をうのみにするのではなく、しっかり考えながら読む。学生にはそれらを修得して、音楽に対する見方や考え方を築いてほしいと思っています。

仕事柄、音楽以外にもかなりの本を読みます。読書は、凝り固まった自分の考え方の枠組みを変え、違うものの見方を発見するきっかけとなります。4年前に大音にきた時からこの研究室を使っていますが、目下の悩みは日に日にこの研究室のテーブルに積み上がっていく本や資料の整理整頓ですね。

本ばかり読んでいるから、というわけではないのですが高校時代にすごく太ってしまい、「痩せなければ」と思ったのがきっかけでランニングを始めました。それから今も趣味として続けています。実はもともと足が速くて運動は得意。今は忙しくなってしまう、10kmを週に1度走る程度ですが、今のところリバウンドはしていないので、これも走っているおかげかなと思っています。

## 今回の推薦曲

- モンテヴェルディ:オペラ「オルフェオ」アーノンクール指揮 チュリヒ歌劇場ボネル演出[◎:LD115(映像)]
- モンテヴェルディ:聖母のためのタベの祈り ガーディナー指揮[◎:CDF34-IV、LD37(映像)]
- コレリ:合奏協奏曲 ピノック[◎:CDC4-IV]
- コレリ:トリオ・ソナタ集 ピノック[◎:CD7-4]
- ヴィヴァルディ:ヴァイオリン協奏曲集「四季」カルミニョーラvn [図書館にはありませんがNAXOSで聴くことができます]

※ ◎は図書館請求番号を表しています

しました。その中の一曲二曲を挙げてみても仕方がないのですが、やはりヴァイオリン協奏曲集「四季」を挙げないわけにはいかないでしょう。彼らの音楽が、他国の作曲家たちに与えた影響の大きさは計りしれません。次回はイタリアから影響を受けながら、独自のバロック音楽を展開したフランスやドイツの名曲を訪ねたいと思います。



## 大音生が生音で魅了 アーマード・コア サウンドコンサート2013

プレイステーション用の人気ゲーム「アーマード・コア」で使われている音楽を生音で体験できるコンサートが、1月13日(日)寢屋川のアルカスホールで行われました。仕掛人である大阪電気通信大学いしげきひでゆき教授が「ぜひ大音の学生にも演奏してほしい」ということで、本学の管打楽器と声楽の学生・卒業生総勢35名がスペシャルユニットを組んで参加。ほかに作曲した星野康太さん率いるグループ「Frequency」や大阪電気通信



▲声と管楽器で迫力の演奏をした大阪音楽大学のユニット

大学のDJユニットが会場を盛り上げました。当日はゲームファンで会場はほぼ満席状態。普段は生で聴くことのできるゲーム音楽を迫力ある生音で体験しました。



▶お世話になったロジャー・アームストロング先生と



▼大学内のホワイエ

## Daion Report ~海外見聞録~

学生が見た!聞いた!海外体験をお送りします。

由利 友樹子さん(大3・フルート)

## 「自分の意見を持って主張すること」が 当たり前の文化

以前、交換留学生としてイギリスから大音に来ていたエイミーちゃんと仲良くなり、私の中でイギリスへの興味がさらに大きくなっていました。そして昨年の9月よりRoyal Welsh College of Music and Dramaへ3カ月間の交換留学をするようになりました。

現地に着いた当初は本当にとまどうことばかり。例えば土足で部屋に入ること、バスタブがなくシャワーのみであること。またこちらのスーパーマーケットではバッグを持参するのは当たり前で、袋をもらうにはお金を払わなければなりません。語学が堪能ではない私にとって生活に慣れるだけでも大変で、最初の頃は気持ちに余裕が持てませんでした。でも、同じフラット(集合住宅)に住むヨルダンやイタリア、スベ

ン、マレーシアなど各地から来ている人たちと仲良くなり、お互いの国の文化などいろいろな話をするようになってから楽しくなってきました。「なぜノーと言えないのか」「なぜハグをしないのか」などみんな日本に対する知識も豊富で好奇心が旺盛。英語で答えるのは本当に大変でした。こちらの人は自分の意見をしっかり持っていて主張します。授業では、演奏する際に作曲家の解説に始まり「なぜこの曲を演奏するのか」「どういう気持ちで演奏するのか」など、考え方を言わなければなりません。日本での授業との大きな違いに驚きながらも、留学を終える頃には私自身が少し強くなった気がしました。







演奏会やオペラなど、大音関連の魅力的なイベントを紹介します。

# 演奏会 Information

MH=ミレニアムホール OH=ザ・カレッジ・オペラハウス

●=出演者 ■=場所 ◎=入場料 ☎=問い合わせ先

## 大阪音楽大学主催公演

**大阪音楽大学短期大学部 2012年度卒業演奏会**  
第一夜3/13(金)18:00～、第二夜3/14(木)18:00～  
●2012年度成績優秀者による演奏会  
■OH ◎無料(要整理券)

**大阪音楽大学 2012年度卒業演奏会**  
第一夜3/15(金)18:00～、第二夜3/16(土)18:00～  
●2012年度成績優秀者による演奏会  
■OH ◎無料(要整理券)

**ザ・カレッジ・オペラハウス**  
**第27回推薦コンサート2012**  
**88鍵×3台×6人による管弦楽曲堪能夜会**  
～ピアノは何楽器??～ 3/23(土)18:30～  
●加藤 英雄・齊藤 まり子・関口 康祐・竹中 敦子・前川 祥子・三橋 祥子 ■OH ◎一般2000円、シルバー、幸楽会会員、音楽院会員、小・中・高校生1000円

**第1回ミレニアムピアノコンサート**  
5/16(木)17:00～ ◎丸山 耕路、小出 ひろみ  
■MH ◎無料

**第2回ミレニアムピアノコンサート**  
6/4(火)17:00～ ◎未定 ■MH ◎無料

**オーケストラの日2013 3/31(日)14:00～**  
●並河 寿美、小林 峻、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 ■豊中市立アーク文化ホール  
◎無料(要整理券)

**問い合わせ先:** 大阪音楽大学コンサート・センター  
TEL:06-6334-2242 <http://daion.ac.jp>

## 学生自主演奏会

**鹿岡晃紀 トスティセミナー 2012**  
**ディプロマ取得記念ソロコンサート**  
4/22(月)18:30～  
●鹿岡晃紀(T)、馬場愛莉(P)、椎名弘明(Vn)  
■MH ◎無料 ☎akinori\_0624@yahoo.co.jp(鹿岡)

**Message**  
昨年受講したトスティセミナーのディプロマ授与を記念してソロコンサートを行います。全編トスティプログラムで、イタリア語と英語の歌を歌います。あまり知られていない曲にも挑戦します。ぜひお越しください。

**第54回 オペラ研究部2013新入生歓迎演奏会**  
**W.A. モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」**  
4/26(金)17:00～ ■MH ◎無料  
☎futokoredo.kraus@softbank.ne.jp(谷口)

**Message**

今年はW.A.モーツァルトの4大オペラから「コジ・ファン・トゥッテ」に挑戦します。アンサンブルを中心とした愉快で難解な音楽に部員一同苦戦していますが、私たちにしかできない良い舞台にするために日々精進していきます。

## 大阪音楽大学後援演奏会

**戸川晃子&次郎丸智希デュオ・コンサート**  
3/20(水・祝)15:30～  
■兵庫県立美術館アトリエI  
◎会員2000円、一般2500円、大学生以下1000円  
☎078-230-8150(神戸日独協会)

**《kakiの会》コンサート vol.1 柿木功先生古稀を祝う**  
3/23(土)14:00～  
●柿木 功、大崎 友美、小餅谷 哲男 他  
■兵庫県立芸術文化センター小ホール  
◎3500円(当日4000円)  
☎072-293-7610(日本テレマン協会・柿木功)

**テノール・ガラコンサート～林誠門下会～**  
4/11(木)19:00～  
●林 誠、阪本 朋子、岩城 拓也 他  
■ザ・フェニックスホール ◎3500円(当日4000円)  
☎090-5896-2857(谷 浩一郎)

**Quatre Feuilles meets J'zCraze**  
4/12(金)19:30～  
●西川 綾子、丹下 緒、安部 一城、浅井 雄作 他  
■ノースクラブ  
◎3500円(当日3800円)(別途要オーダー)  
☎090-3278-5077(キャトル・フィユ)

**東健三ヴァイオリンコンサート 4/14(日)14:30～**  
●東 健三、出戸 由記子  
■ムラマツリサイタルホール新大阪  
◎3000円(当日3500円)  
☎06-6781-2824(東マネージメント)

**小杉裕一ヴァイオリンリサイタル 5/13(月)19:00～**  
■イシハラホール  
◎一般3000円、学生2000円(当日3500円/2500円)  
☎0797-84-5952(ラプト・サウンド)

**傘寿記念 竹内良治 チェロリサイタル**  
5/18(土)15:00～  
■みつなかホール ◎3000円  
☎06-6135-0503(大阪アーティスト協会)

**3×Duo コンサート 5/24(金)19:00～**  
●原 真奈美、久保田 裕美、丸岡 良子、村上 慈  
■豊中市立ローズ文化ホール  
◎一般2500円、学生1500円  
☎06-6151-4134(トリプルデュオ)

**歌劇「椿姫」(原語上演) 6/23(日)14:00～**  
●四方 典子、前田 満、澤脇 達晴、西尾 麻貴 他  
■ピアザ淡海 ピアザホール  
◎3000円(当日3500円) ☎090-3942-4960(金丸)

**高津綾子ソプラノリサイタル(3つのブルーランク)～ブルーランク、没後50年。サティとシェンベルクを添えて～**  
6/23(日)14:00～  
●高津 綾子、坂口 絵梨 ■いたみホール  
◎2500円(当日3000円)  
☎072-781-8087(永澤学事務所)

## 幸楽会 総会 4/28(日)

●2013年度総会 14:00(受付13:30～) MH  
●懇親会 15:30 学生サロン「ばうぜ」恒例の立食パーティーです。会費は無料。情報交換の機会としてご参加ください。  
お問い合わせ 電話:06-6334-2832 kougaku@daion.ac.jp  
▶昨年の懇親会の様子

## 「大学案内2014」4/1発行!

大阪音楽大学がまるごとわかるガイドブックです。受験をお考えの方、大音を知りたい方などご希望の方は無料でお送りいたします。入試センター 0120-414-015(フリーダイヤル)またはHPの「資料請求・お申込」フォームよりご請求ください。

学校法人 大阪音楽大学広報誌「Muse」 vol.225 2013年3月15日発行  
●発行:学校法人 大阪音楽大学 〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8 TEL:06-6334-2131 FAX:06-6334-2141 <http://daion.ac.jp>  
●制作・編集:広報室 muse@daion.ac.jp  
●デザイン協力:(株)産業編集センター

## キャリア支援センター

**「演奏活動」は決してステージ上だけのものではありません。コンサート企画・準備から無事終了するまでを皆さんにぜひ知ってもらいたいと思います。**

## 知って得する「演奏以外」にすべきこと

音楽を勉強している学生の皆さんなら「ぜひステージで演奏してみたい」という方が大半でしょう。そんな皆さんにぜひ演奏経験を積んでいただきたいのです。キャリア支援センターではそんな希望にお応えするサポートも行っています。

「人前で演奏する」、しかも「学外で」となる、ただ現地に行き演奏だけをして帰る、というわけにはいきません。演奏には「演奏以外」のさまざまな「すべきこと」があるからです。例えばクライアント(依頼主)との交渉、チラシやチケット、プログラム作成、機材のセッティングetc.……これらの経験は、大学を卒業し社会人となってもあらゆる場面で生かすことができます。学生時代から身に付けておくことで、将来何かしら役に立つのです。いくら演奏の腕が良くても「演奏だけすればいい」という考えや態度はトラブルのもと。演奏そのものはもちろんですが、「演奏するためにするべきこと」を学生時代にどれだけ身に付けられるかについても、ぜひ考えてみてください。

キャリア支援センターでは、学生の皆さんのために「学外演奏のしおり」を作成、配布しています。興味のある方はぜひ声をかけてください。

**春の京都にうたう 4/14(日)14:00～**  
●監修:塚田佳男、瑞穂の会  
■京都府民ホールアルティ ◎3000円  
☎090-5971-9751(小林)

**ラ・リュミエールコンサート 4/21(日)13:30～**  
●三枝 純子、芹生 美里、竹川 麻由美 他  
■兵庫県立三木山森林公園音楽ホール ◎無料  
☎0797-87-1540(芹生)

**ジョイントチャリティコンサート 4/21(日)15:00～**  
●白原 理香、浜本 佳世子、渡辺 雅子 他  
■島之内教会  
◎一般1200円、学生(大学生以下)700円  
☎rainbownotes2006@yahoo.co.jp(JCC実行委員会)

**西垣良美 マリンバリサイタル 5/24(金)19:00～**  
■兵庫県立芸術文化センター小ホール ◎3000円  
☎06-6204-0412(エス・ビー・エス)

**田村靖子 ソプラノリサイタル 5/25(土)14:30～**  
■世良美術館 ◎2500円  
☎recital.tamura@gmail.com

**リコーダーオーケストラ デル・ソーレ大阪 第6回コンサート 6/2(日)14:00～**  
■イシハラホール ◎1500円  
☎06-6444-5875(イシハラホールチケットセンター)

▲ミント神戸(ショッピングセンター)での学外演奏の様子

「学外演奏のしおり」が欲しい方は、キャリア支援センターへ!

学外演奏について興味のある方もキャリア支援センターへお越しください

キャリア支援センター音楽の仕事情報館 岩崎 慎也

ひとこと Muse

学生サロン「ばうぜ」の壁紙がシックなレンガ風の落ち着いた雰囲気リニューアル!さらに新メニューも登場するかも!4月よりランチタイムコンサートも開催予定。進化した「ばうぜ」をお楽しみに!

# CAMPUS Information

学内の各部門・施設から、学生生活に役立つ情報をお届けします。

## 学生支援センター

修得科目・費用・手続きについて知っておこう

▶まずは「履修ガイド」を開いてみよう

## 「教師になるぞ!」と思い立ったら

皆さんの中には「あんな先生になりたい!」と憧れたことがある方も多いことでしょう。本学では、教職課程科目を修得することにより中学校教諭(音楽)<sup>\*1</sup>および高等学校教諭(音楽)<sup>\*2</sup>の免許状を取得することができます。そのためには「どのような科目を修得しなければならないか」が教育職員免許法で決められており、合わせて本学の「建学の精神」「教育理念」および「教員養成のポリシー」に基づきカリキュラムが作られています(「学生便覧」参照)。

すべての大学が教職課程を開設しているわけではありません。せっかく大音へ入学したのですから、教員という仕事に興味がある方はぜひこれを一読

してみてください。

教職課程の科目は、一部を除いて卒業に必要な単位には含まれません。さらに授業料とは別に履修料が必要になります。ですが、教育実習での充実した経験や教職専門科目を履修することは、教育者としての知識に加え、音楽指導者としてのスキルを身に付けることができます。まずは必要な手続きや修得科目について「履修ガイド」で確認し、わからないことがありましたら学生支援センターへお越しください。

※1大学・短大とも ※2大学のみ

学生支援センター 武田 恵美子

教職についての質問は学生支援センターまで

## 連携支援センター

## 大阪音楽大学 カレッジ・オペラ講座2013 オペラ物知り講座

「オペラをビットから支えるインストルメント」素晴らしいオペラのソロ奏者を招いてオペリアを堪能してください。  
構成・お話:中村 敬一  
時間:18:30～20:30(18:00開場)  
場所:ミレニアムホール  
受講料:1回1000円/4回一括3500円

●第1回 5月14日(火)  
「コンサートミストレスのヴァイオリンがオペラを引っ張っていきます」  
演奏:赤松 由夏(Vn)、並河 寿美(Sop)、関口 康祐(Pf)

●第2回 7月16日(火)  
「森に響き渡るホルンが人間の欲望を表現します」  
演奏:伏見 浩子(Hr)、和泉 万里子(Sop)、佐藤 明子(Pf)  
●第3回 10月29日(火)  
「オーボエの哀愁の音色が人間の心の叫びを伝えます」  
演奏:佛田 明希子(Ob)、平野 雅世(Sop)、谷 浩一郎(Ten)、関口 康祐(Pf)  
●第4回 2014年1月21日(火)  
「パーカッションのリズムがドラマの緊張感を高めます」  
演奏:安永早絵子(Perc)、林 佑子(Sop)、西尾 麻貴(Pf)

## 大阪音楽大学 カレッジ・オペラ講座2013 一般社会人のためのオペラ講座

オペラを客席から見るだけではなく、一度はステージで歌ってみたいと思ったことはありませんか。あんな高い声や難しい外国語のリアンなんて、と思っていらっしゃるオペラファンの皆さん。オペラハウスのある大阪音楽大学ならではの企画です。プロのオペラ歌手や、指揮者、演出家、コレパティートルが、直接皆さんにレッスン。オペラハウスの舞台上で歌い演じてみませんか。

演出:中村 敬一 / 指揮:加藤 完二  
声楽・原語指導:福島 慶子、田邊 織恵  
コレパティートル:矢崎 真理、西尾 麻貴  
日程:5月9日、23日、30日、6月6日、13日  
時間:18:30～20:30  
場所:大阪音楽大学、最終日はザ・カレッジ・オペラハウス  
受講料:23000円  
定員:30名  
(アリアコース15名・アンサンブルコース15名)  
※曲目等詳細は募集要項、またはHPでご確認ください。

## 2013年度ミレニアムホール特別講座

プロデュース・司会:日下部 吉彦  
時間:14:00～16:00(13:30開場)  
場所:ミレニアムホール  
受講料:1回1000円/4回一括3500円  
●第51回 6月8日(土)  
「プリテン生誕100年、教会劇「カーリヤー・リヴァー」」  
演奏:西垣 俊朗(狂女 Ten)、東 平間(渡守 Br)、佐田 めぐみ(E.Pf) 他  
●第52回 9月14日(土)

『楽器の原点、ホルン・アンサンブルの楽しさ』  
演奏:池田 重一(Hr)、小坂 智美(Hr)、坂東 裕香(Hr)、篠内 泉(Hr)、濱田絵梨(Pf)  
●第53回 12月14日(土)  
『ドビュッシー(仏)とヴェルディ(伊)でアルプスを越えた姉弟・愛のアンサンブル』  
演奏:油井 美加子(Pf)、油井 宏隆(Br)  
●第54回 2014年3月1日(土)  
『スター・カップルが演ずる《デュエット・ガラ》』  
演奏:田中 勉(Br)、田中 花輝子(Ms)、関口 康祐(Pf)

## お申し込み・お問い合わせ

大阪音楽大学 連携支援センター  
TEL 06-6334-2249 <http://daion.ac.jp>  
※特別講座・公開講座の項目をご覧ください。

## 編集後記

次号は6月14日発行予定です

和泉耕二副学長の故郷・宮城県石巻市を訪れる機会を得ました。震災から約2年、街はかなりきれいになりましたが、目に見えない部分での問題は山積みであり、復興と呼ぶにはまだまだ遠い状態だということを改めて実感しました。美しい石巻の風景が戻る日を思い描きながら、「自分にできることは何か」を考え、少しずつでも行動していこうと思います。(は)



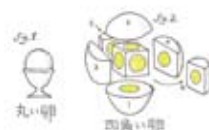
## 挨拶文が世界平和に つながっているって 知っていましたか？

学長になって(やっと)1年が過ぎようとしています。今まで思いもしなかったようなことを考えないといけないし、初めて経験することが盛りだくさん、いやア、疲れます。なぜこんな書き出しになったかという、編集者から「この1年を振り返るような文章を頂けませんか」という要望があったからです。心優しい私は「いいよ」と気軽に応えましたが、明るい内容になるわけがありません。私の得意はネガシン(ねえねえ、ネガシンって知ってる？ ネガティヴ・シンキングのことよ！ コスパはCMで定着しましたが、ネガシンは今、私が思いっただけなので市民権はありません。念のため)。以上、事情説明が終わったところでリセット。

学長になってはや1年が過ぎようとしています。学長の仕事の一つに、挨拶文を書くというのがあります。プログラムの最初に載っていて、誰も読まないというアレです。世の中に無駄は必要だ、というのは私の持論ですから、プログラムに挨拶文が載っていることには何の文句もありません。

問題は、それを自分が書かなければならないという点です。ある種の約束事のようなものですから、取り立てて問題にするほどのことでもないのかもしれませんが、でもア、年間20本はあるんですよ。演奏会以外のものも入れると倍くらいになります。でも、ものは考えよう。positive=積極的な、前向きな／negative=消極的な、後ろ向きなという意味ですが、positive=出しゃばり、目立ちたがり／negative=思慮深い、控えめで奥ゆかしいと考えれば、ずいぶん印象が変わります。「丸い卵も切りようで四角」といいますが、まさに「コロンブスの卵」。生きていく上で大切なのは、自分を相対化できること(これを相対性理論といいます、ウソです)。相対化することで余裕ができ、余裕の中からユーモアが生まれます。そして、ユーモアは不幸を和らげてくれます。

挨拶は友好のしるし、多くの人の目にとまる挨拶文は(誰も読まなくてもお守りのように)世界平和に寄与しているという理屈もつけられそうですし、学長には任期(人気ではありません、念のため)がありますから、いつかは解放される。苦勞した分、より一層幸せな老後が待っていると言えます。アッ、これって究極のポジシン？



ひょん じょんちる ● 1971年生まれ。  
10歳よりクラリネットを始める。大阪音  
楽大学を卒業後、渡仏。これまでに本田  
耕一氏、ミシェル・アリニョン氏に師事。  
ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団を経  
て、現在京都市交響楽団に在籍。

## あきらめかけた私をそのたび救ってくれた 言葉を学生の皆さんに

クラリネット・講師 玄 宗哲

教 員  
リレー  
エッセイ  
Vol.7

人と人の間には必ず河が流れている。しかし渡り合える河があるからこそお互いに歩み寄ろうとするのだ。辿り着きたい岸が見えない人こそ不幸なのかもしれない。

在日韓国人である私は、かつて国と国の境には目には見えない空間があると考えたことがある。そして私はその空間にすっぽりとまわって抜けない人間なのだ。冒頭の言葉を借りるなら私は不幸な人間で、そしてそれは自らそう仕向けていたのだと思う。

この「人と人」を「過去と未来」に置き換えて考えてみたい。学生の皆さんにもそれぞれに素敵な「岸」があることだろう。烈しい河の流れを目の前にして、かつての「不幸な私」のようにただ眺めているだけでは永々「岸」に辿り着くことはできない。しかし泳ぎ続けている限り、たしかに「岸」は自分に近づいてくる。

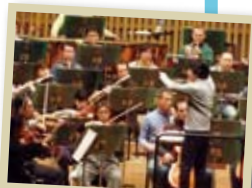
小学生の頃に始めたクラリネットに魅せられ、程なくして同級生と語り合った「やれサッカー選手になる」「やれプロボクサーになる」「そして私は「ベルリン・フィルに入る」という花盛りの記憶が新しい——。そんな私が初めてプロ

のオーケストラで演奏したのは、大学二回生の頃。寄せ集めではあるが、いろいろなオケから集まった賈禄たつぷりの奏者たちがずらりと並ぶ中、まだ二十歳にもならない私のポジションは一番クラリネット。曲目はベートーベンの交響曲などで、リハーサルはその場で楽譜を渡されさつと一回通すのみ。論無くその後の本番は散々なもので、自分の存在はまるで誰からも見向きされないうる気持ちになったのを覚えている。その後も鳴かず飛ばずの連続で「岸」は遥か彼方、或いはもう見えなくなっていたかもしれない。私が「岸」に辿り着いたのはそれから十三年後のこと。順風満帆とは程遠い、いや順風満帆な人生などあるのだろうか。

「何も咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」

泳げども見えぬ「岸」に、何度となくあきらめかけた私をそのたび救ってくれたこの言葉を、最後に学生の皆さんへ贈りたい。

今回は才色兼備な  
オペラ界のプリマドンナ、  
石橋 栄実先生に  
お願いします



所属する京都市交響楽団にて。信頼する仲間たちとの演奏のひとつ